

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・月 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 理学療法士としての資質を醸成する為に、理学療法の基盤となる領域を幅広く学び、効果的な理学療法を行ううえでの背景や根拠を学ぶ。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法士の仕事について説明できる。 ②理学療法の対象について説明できる。 ③理学療法の方法について説明できる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	理学療法士とは		理学療法士の仕事, 現状, 養成校カリキュラムの概要を学ぶ。			
2	到達目標		養成校卒業時の到達目標に基づく成績評価について理解する。			
3	理学療法の対象①		脳血管障害(脳卒中)による片麻痺について概要学ぶ。			
4	理学療法の対象②		パーキンソン病, 神経・筋疾患について概要を学ぶ。			
5	理学療法の対象③		小児疾患(脳性麻痺)について概要を学ぶ。			
6	理学療法の対象④		変形性関節症などの整形疾患の概要について学ぶ。			
7	理学療法の対象⑤		脊髄損傷について概要を学ぶ。			
8	理学療法の対象⑥		呼吸・循環器疾患について概要を学ぶ。			
9	理学療法の対象⑦		糖尿病, 老年症候群について概要を学ぶ。			
10	理学療法の方法①		筋力の評価と治療の基礎を学ぶ。 徒手筋力検査を体験する。			
11	理学療法の方法②		関節可動域の評価と治療の基礎を学ぶ。 関節可動域測定を体験する。			
12	理学療法の方法③		形態測定の基礎を学ぶ。 形態測定を体験する。			
13	理学療法の方法④		反射検査の基礎を学ぶ。 深部腱反射と姿勢反射について体験する。			
14	理学療法の方法⑤		バランスの評価と治療の基礎を学ぶ。 バランス検査を体験する。			
15	理学療法の方法⑥		疼痛の評価と治療の基礎を学ぶ。 疼痛の評価を体験する。			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 受講態度	90% 10%	
【教科書】 特に指定しない						
【参考書】 PTスタートガイド 基礎理学療法概論(メヂカルビュー社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 各授業のテーマに配布される資料を見返すこと。						
【本講義についての質問先】			担当教員		【質問方法】 教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
橋本 雅郎	病院 25年勤務	橋本	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 2	【授業形態・単位】	演習 2
【授業の概要】 理学療法士としての資質を醸成する為に、理学療法の基盤となる領域を幅広く学び、効果的な理学療法を行ううえでの背景や根拠を学ぶ。					【受講して得られる力】 前に踏み出す力 考え抜く力 チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①理学療法士の仕事について説明できる。 ②理学療法の対象について説明できる。 ③理学療法の方法について説明できる。						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	理学療法の方法⑦		感覚障害の評価と治療の基礎を学ぶ。 表在感覚・深部感覚検査を体験する。			
2	理学療法の方法⑧		運動麻痺の評価と治療の基礎を学ぶ。 片麻痺の運動機能検査を体験する。			
3	理学療法の方法⑨		運動失調の評価と治療の基礎を学ぶ。 運動失調検査を体験する。			
4	理学療法の方法⑩		歩行能力の評価の基礎を学ぶ。			
5	義肢装具		義肢装具とは何か、また、その使用目的について学ぶ。			
6	ADL練習		ADLとは何か、またADLを見るために何が必要かを学ぶ。			
7	地域包括ケアと理学療法		地域包括ケアとは何か、また高齢社会の現状を学ぶ。			
8	疾病と障害の分類		理学療法士による“障害のみかた”について学ぶ。			
9	臨床実習		養成校で行われている臨床実習について学ぶ。			
10	物理療法と理学療法		理学療法に併用される物理療法について学ぶ。			
11	診療報酬制度		保険下で働く理学療法士の対価について学ぶ。			
12	理学療法の歴史		理学療法の歴史と世界の理学療法について学ぶ。			
13	理学療法士にかかわる他職種		理学療法にかかわる他(多)職種について学ぶ。			
14	施設体験		現場の知識・技術を通して働くことの意義を理解する。			
15	施設体験					
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 受講態度	70% 10%	レポート 20%
【教科書】 特に指定しない						
【参考書】 PTスタートガイド 基礎理学療法概論 (メヂカルビュー社)						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】			各授業のテーマに配布される資料を見返すこと。			
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 3・4	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】						
①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】		実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	脳卒中後に生じやすい廃用症候群		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
2	脳卒中後に生じやすい廃用症候群		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
3	皮質脊髄路について		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
4	皮質脊髄路について		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
5	歩行にかかわる中枢性の機構		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
6	歩行にかかわる中枢性の機構		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
7	運動関連領域の構造、機能、役割、違い		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
8	運動関連領域の構造、機能、役割、違い		中枢系理学療法学Ⅰから学んだ内容を復習する			
9	急性期・回復期理学療法の目的		急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る			
10	急性期・回復期理学療法の目的		急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る			
11	急性期・回復期理学療法の目的		急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る			
12	急性期・回復期理学療法の目的		急性期・回復期の理学療法の実技について学ぶ 急性期・回復期の理学療法を実際に行うことが出来る			
13	脊髄損傷の理学療法		脊髄損傷に随伴する症状について理解する 脊髄損傷に随伴する症状について説明することが出来る			
14	脊髄損傷の理学療法		脊髄損傷の評価の考え方について理解する 脊髄損傷の評価項目を挙げることが出来る			
15	運動失調の理学療法		運動失調の病因・症状について学ぶ 運動における小脳の働きを説明することが出来る			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100% 0%	0% 0%
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ 協同医書出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く! 上肢機能回復アプローチ 脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】2年次の中枢系理学療法学Ⅰ, 神経内科学の復習を十分にすること						
【本講義に関する質問先】		担当教員	【質問方法】		メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
添田 健仁	病院 17年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・水 3・4	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					前に踏み出す力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】						
①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】		実技が多くなるので、動きやすい服装で参加する				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	運動失調の理学療法		失調症の理学療法に対する考え方を学ぶ 失調症の運動療法に必要な固有感覚の情報について説明が出来る			
2	パーキンソン病の理学療法		パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る			
3	パーキンソン病の理学療法		パーキンソン病の治療の実技を学ぶ パーキンソン病の治療の実践する事が出来る			
4	多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症について		多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療の実技を学ぶ 多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症の評価と治療を実践することが出来る			
5	外傷性脳損傷、高次機能障害のリハビリテーションについて		急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について学ぶ 急性硬膜下血腫、硬膜外血腫、びまん性軸索損傷について説明できる			
6	ボバース概念		ボバース概念治療の実際について体験する			
7	人間発達学的アプローチの実技		ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチについて学ぶ ヒトが生まれてから歩くまでの発達段階に分けたアプローチを行うことが出来る			
8	促通反復療法		促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる			
9	促通反復療法		促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる			
10	促通反復療法		促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる			
11	促通反復療法		促通反復療法の実技を理解する 促通反復療法の実技を行うことができる			
12	CI療法、課題指向型アプローチ		CI療法、課題指向型アプローチの概要について理解する CI療法、課題指向型アプローチの概要について理解する			
13	CI療法、課題指向型アプローチ		CI療法、課題指向型アプローチの実際について体験する CI療法、課題指向型アプローチの実際について体験する			
14	中枢神経疾患に対する治療法		中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事が出来る			
15	中枢神経疾患に対する治療法		中枢神経疾患に対する治療手技(トピックス) 中枢神経疾患に対する色々な治療手技について挙げる事が出来る			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ 協同医学出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く!上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】2年次の中核系理学療法学Ⅰ, 神経内科学の復習を十分にすること						
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	t-soeta@k-tohto.ac.jp	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
遠藤 敏裕	病院 26年勤務	添田	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	後期A・火 1・2 後期B・月 3・4	【授業形態・単位】	演習・実習 3
【授業の概要】					【受講して得られる力】	
中枢神経疾患患者に対する理学療法の理論を理解し、臨床現場で行われている様々なアプローチ方法を実技を中心に学ぶ					知識・理解 専門職としてのスキル・意識 問題解決力 創造的思考力	
【学習目標(到達目標)】						
①中枢神経疾患についての理解を深める ②臨床現場で用いられる各種アプローチ方法の基礎的な概要を理解する ③各種アプローチ方法の実技を体験することでより理解を深める						
【履修上の注意】実技中心なので運動しやすい服装に留意してください。ジーパンでの受講は出来ません						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	制御理論的アプローチ (遠藤)		制御理論的アプローチの理論を学ぶ 制御理論的アプローチについて説明することが出来る			
2	制御理論的アプローチ:上肢 (遠藤)		上肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 上肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る			
3	制御理論的アプローチ:下肢 (遠藤)		下肢に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 下肢に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る			
4	制御理論的アプローチ:体幹 (遠藤)		体幹に対する制御理論的アプローチについて学ぶ 体幹に対する制御理論的アプローチを実践することが出来る			
5	PNFとは (遠藤)		PNFの理論的背景について学ぶ PNFの理論的背景について説明できる			
6	上肢のPNF (遠藤)		上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る			
7	上肢のPNF (遠藤)		上肢の各関節を軸とした3軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 肩関節を中心としたパターンを実践することが出来る			
8	下肢のPNF (遠藤)		下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る			
9	下肢のPNF (遠藤)		下肢の各関節を軸とした4軸運動を抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。 股関節を軸としたパターンを実践することが出来る			
10	体幹のPNF (遠藤)		体幹の各関節を軸とした4抵抗運動、抵抗介助運動・介助運動に分けて行うことが出来る。			
11	まとめ (遠藤)		まとめ			
12	脳画像と臨床症状 (阿部)		脳画像を把握する意義について理解する 各種脳画像の特徴と見方を理解する			
13	脳画像と臨床症状 (阿部)		脳画像における皮質脊髄路と言語野を理解する 臨床症状と脳画像から理学療法プログラムを立案する過程について理解する			
14	運動学習と理学療法 (木村)		運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる			
15	運動学習と理学療法 (木村)		運動学習の概念について理解する 運動学習の概念について説明することができる			
期末試験	後期期末試験		評価方法	課題の達成度 50% 筆記試験 50%		
【教科書】標準理学療法学 専門分野 神経理学療法学 医学書院 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 文光堂						
【参考書】細田多穂・柳沢健編集:理学療法ハンドブック[改訂第3版]第2巻 治療アプローチ 協同医書出版社 脳卒中理学療法の理論と基礎 行動変容を導く!上肢機能回復アプローチ脳卒中上肢麻痺に対する基本戦略						
【授業時間外に必要な学習の具体的な内容】実技の復習は当日必ずする						
【本講義についての質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	前期・水 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる						
【履修上の注意】 毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	呼吸理学療法とは		呼吸理学療法の概要を理解する 呼吸器疾患の現状を知り、呼吸理学療法の必要性を認識する			
2	呼吸器の解剖学		呼吸理学療法を学ぶ上で必要な、解剖・生理について理解する			
3	呼吸運動		気管・気管支・肺・肺胞・胸郭などの解剖と呼吸のメカニズムについて説明できる			
4	呼吸の生理学					
5	肺胞でのガス交換		肺胞でのガス交換について、原理・現象をとらえる			
6	血液ガスの評価		血液ガスデータを使用して、評価を行う方法を学ぶ			
7	呼吸器疾患とそのメカニズム		低酸素血症および換気障害の分類について理解する 拘束性・閉塞性肺疾患とそのメカニズムについて説明できる			
8						
9	呼吸理学療法評価		視診・聴診・触診など呼吸理学療法に必要な評価項目を学ぶ			
10						
11	呼吸理学療法手技		呼吸理学療法に必要な評価について実技を通して学ぶ			
12						
13	呼吸理学療法:評価・治療実技		聴診、触診などの評価どの手技を体験する 呼吸介助法や体位肺痰法などの手技を体験する			
14						
15	まとめ		呼吸理学療法のまとめ			
期末試験	前期末試験		評価方法	筆記試験	90%	課題の達成度 10%
【教科書】 内部障害理学療法学 呼吸 第2版 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト						
【参考書】 特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】 教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
川崎 萌絵	病院 8年勤務	川崎	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・金 3・4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 内部障害の病態・生理的背景について理解し、また各疾患ごとの理学療法評価・プログラム・リスク管理に関して学ぶ科目です。					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識	
【学習目標(到達目標)】 ①呼吸器の構造・機能について説明できる ②呼吸器疾患のメカニズムについて説明できる ③呼吸器疾患に対する理学療法評価・プログラム・リスク管理が実施できる						
【履修上の注意】 毎回の講義の終わりに、次回の講義の内容をアナウンスするので、予習を行ってこよう。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	循環器の基礎①		循環器系の解剖、生理を理解する 心臓リハビリテーションに必要な基礎知識を整理する			
2						
3	循環器の基礎②		心電図・不整脈の診かたについて、課題を実施し心電図への理解を深める			
4						
5	循環器疾患に対する評価		運動耐容能とその評価について理解する			
6	循環器疾患の病態・検査と治療		虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症などの 循環器疾患の病態と検査・治療について理解する			
7						
8						
9	虚血性心疾患に対する理学療法		ケーススタディをし、評価計画・解釈・治療プランの 立案を実施する			
10						
11	リスク管理		呼吸・循環器疾患におけるリスク管理について学び、救急救命法についての理解を深める			
12						
13						
14	心大血管術後の理学療法		心大血管術後のリスク管理と理学療法について理解する			
15	まとめ		呼吸循環器系理学療法学のまとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】内部障害理学療法学 循環・代謝 第2版 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト						
【参考書】これならわかる！心電図の読み方～モニターから12誘導まで～						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】教科書の内容を一読し、キーワード(用語)の説明ができるようにする。						
【本講義に関する質問先】			科目責任者	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安藤 由香里	クリニック 7年勤務	安藤	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	木 1	【授業形態・単位】	演習・実習 1
【授業の概要】 理学療法士になるために、必要な文章能力・理論的思考を理解し、修得する科目です。					【受講して得られる力】 チームで働く力 考え抜く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 コミュニケーションスキル 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①文章読解・文章作成能力について学び、文章検定3級を取得する。 ②自分の意見を論理的に説明することができる。 ③理学療法士に必要な根拠ある理学療法とは何かを説明することができる。						
【履修上の注意】		特にありません。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	文章検 ～語彙・文法～	教科書の「第1章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
2	文章検 ～資料分析～	教科書の「第2章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
3	文章検 ～文章読解～	教科書の「第3章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
4	文章検 ～手紙文～	教科書の「第4章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
5	文章検 ～意見文～	教科書の「第5章」を解き、内容を理解する。 グループワークを通し理解を深める。				
6	文献抄読	興味のある分野の文献を検索し、文献を1つ選ぶ。 グループワークを通し理解を深める。				
7	文献抄読	文献を読み、その内容について他者へ伝える。 グループワークを通し理解を深める。				
8	症例検討	グループに分かれ、興味のある症例について調べ、治療プログラムを考え、発表する。				
9						
10						
11						
12						
13						
14	発表	グループ発表				
15	発表	グループ発表				
期末試験	後期期末試験		評価方法	発表会の結果 筆記試験	50% 50%	
【教科書】基礎から学べる文章カステップ文章検3級対応						
【参考書】特に指定しない						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	45(90)
			【曜日・コマ】	前期・木 1	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 運動学の概要および上肢の関節運動について解剖学的知識を含め説明できるようになる。主に、講義形式で講義を展開する					【受講して得られる力】 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①運動学とは何かを説明できるようになる ②上肢の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	上肢の運動作用について		上肢の運動作用と主動作筋について学ぶ			
2						
3						
4						
5	上肢の運動作用について		ふりかえり			
6	生体の構造 (関節の構造、機能、分類)		関節の構造、機能、分類について説明できる 腱および靱帯の構造と機能について説明できる			
7	生体の構造 (骨格筋の構造)		骨格筋の構造、筋の収縮様態について説明できる			
8	上肢帯と上肢の運動① 上肢帯に作用する筋		上肢の骨格・血管・神経について説明できる 肩甲帯と肩関節の動きについて運動学的用語を用いて説明できる			
9	上肢帯と上肢の運動② 肩関節に作用する筋		上肢帯に付着する筋の起始・停止・神経支配・作用について説明できる 肩関節の運動の特徴と運動方向の名称を説明できる			
10	肘関節と前腕の運動① 関節と靱帯		肘関節を構成する骨と靱帯について説明できる 関節の特徴と運動方向の名称を説明できる(肘角・運搬角)			
11	肘関節と前腕の運動② 肘関節の筋		肘関節に作用する筋の起始・停止・神経・神経支配・作用について説明できる			
12	手関節と手の運動① 手関節・手指の解剖		手関節および手指を構成している骨の名称を説明できる 解剖学的特徴を説明できる(手根管、骨の配列、神経など)			
13	手関節と手の運動② 手関節と手指の関節		手関節および手指の運動名称について説明できる 解剖学的特徴を説明できる(手根管、骨の配列、神経など)			
14	顔面および頭部の運動		顔面および頭部の解剖学的特徴を説明できる 顔面および頭部の筋について説明できる			
15	まとめ		前期のまとめ			
期末試験	前期期末試験		評価方法	筆記試験 小テスト	80% 10%	受講態度 10%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 山崎 敦(著)						
【参考書】身体運動学 市橋則明(著) メディカルビュー						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
荒木 芳一	病院 12年勤務	荒木	【開講時期】	通年	【回数(時間)】	30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 4	【授業形態・単位】	講義 2
【授業の概要】 下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる					【受講して得られる力】 知識・理解 態度・志向性	
【学習目標(到達目標)】 ①下肢・体幹の動きについて解剖学的知識を含め説明できるようになる ②正常歩行と異常歩行を理解し、説明できるようになる						
【履修上の注意】		解剖・生理学の知識も必要になるため必要に応じて教科書なども準備して下さい				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	下肢帯と下肢の運動		下肢の関節, 靱帯, 神経, 血管について説明できる			
2	股関節の運動①		股関節の解剖と動きについて説明できる			
3	股関節の運動②		股関節に関与する筋について説明できる			
4	膝関節の運動①		膝関節の解剖と動きについて説明できる			
5	膝関節の運動②		膝関節に関与する筋について説明できる			
6	足関節(足部)の運動①		足関節の解剖と動きについて説明できる			
7	足関節(足部)の運動②		足関節に関与する筋について説明できる 足部に関与する筋、足のアーチについて説明できる			
8	頸部～体幹の運動① 頸部の解剖		頸部の関節と運動について説明できる			
9	頸部～体幹の運動② 頸部の運動		頭部, 頸部, 体幹の筋について説明できる			
10	胸郭① 胸郭の解剖・働きについて		胸椎と胸郭の解剖的特長と関節について説明できる 胸郭の筋について説明できる			
11	胸郭② 呼吸運動と筋について		呼吸の種類と筋活動について説明できる			
12	姿勢①		重心(人体の重心測定、重心線)について説明できる 立位姿勢の安定性について説明できる			
13	姿勢②		立位姿勢の安定性について説明できる 姿勢の記載と類型について説明できる			
14	歩行と走行①		正常歩行について説明する事ができる			
15	歩行と走行②		正常歩行と異常歩行の違いを述べる事ができる			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 80% 受講態度 10%	小テスト	10%
【教科書】PT・OTビジュアルテキスト専門基礎 運動学 山崎 敦(著)						
【参考書】身体運動学 市橋則明(著) メディカルビュー						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】解剖学の復習をしてください						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一		病院 8年勤務	安中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】 30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 3	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】 運動療法は、理学療法士の仕事の中核をなすものです。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を習得することを目標とします。また学生同士で実施する中で、人の身体を動かすときの方法や指示の方法も習得していきます。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】 ①運動療法の概要について理解し説明できる ②各運動療法の目的を理解し、説明できる ③各運動療法を経験し、実施できる						
【履修上の注意】 動きやすい服装で参加してください。スカート不可、ジーパン不可。						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	関節可動域低下に対する 運動療法 ストレッチング (上肢・下肢・体幹)		ストレッチングの目的を理解し説明できる。 ストレッチングの効果を理解し説明できる。 上肢・下肢・体幹の各筋肉・関節包のストレッチングを習得する。 キーワード:スタティック(静的)ストレッチング、バリスティックストレッチング			
2						
3						
4						
5						
6						
7	関節可動域低下に対する 運動療法 関節可動域練習 (上肢・下肢)		エンドフィールを感じる。自動・他動運動の違いを感じる。実技演習。 相手の身体を触り、操作する際の注意点を理解し実施する。 基本的な関節に対して関節可動域運動を実施する。 キーワード:エンドフィール、関節の運動			
8						
9						
10						
11	協調運動障害に対する 運動療法 バランストレーニング		バランストレーニングを実施します。 実技演習を行います。 キーワード:システム理論、運動戦略、運動失調、フレンケル体操			
12						
13						
14						
15	まとめ		前期のまとめ			
期末試験	前期期末試験		評価方法	受講態度 レポート	20% 30%	筆記試験 50%
【教科書】理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学						
【参考書】病気が見えるvol.11運動器・整形外科						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】機能障害について、運動療法の目的・方法・効果について整理し復習してください。						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	1
安中 聡一		病院 8年勤務	安中	【開講時期】	通年	【回数(時間)】 30(60)
			【曜日・コマ】	後期・月 3	【授業形態・単位】	演習・実習 2
【授業の概要】 運動療法は、理学療法士の仕事の中核をなすものです。この科目では、基本的な運動療法の知識と技術を習得することを目標とします。また学生同士で実施する中で、人の身体を動かすときの方法や指示の方法も習得していきます。					【受講して得られる力】 専門職としてのスキル・意識 統合的学習体験	
【学習目標(到達目標)】 ①運動療法の概要について理解し説明できる ②各運動療法の目的を理解し、説明できる ③各運動療法を経験し、実施できる						
【履修上の注意】		動きやすい服装で参加してください。スカート不可、ジーパン不可。				
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	筋力低下に対する運動療法 筋力トレーニング (上肢・下肢・体幹)		上肢・下肢・体幹の筋力トレーニングを習得する。 実技演習を行います。			
2			キーワード: 棘上筋・棘下筋・肩甲下筋 脊柱起立筋・腹直筋・多裂筋・腹横筋			
3			腸腰筋・大殿筋・中殿筋・大腿四頭筋・ハムストリングス			
4						
5						
6						
7						
8						
9	持久力低下に対する運動療法 (全身持久力トレーニング)		持久力とは何か理解し、トレーニングの効果を説明できる。 実技演習を行い、実施方法の確認とリスク管理を行います。			
10			キーワード: 直接法、間接法、トレッドミル			
11						
12						
13	歩行障害に対する運動療法 (歩行練習)		歩行を誘導する際の方法を理解し実施します。			
14			キーワード: 歩行周期、歩行中の重心軌道、免荷歩行			
15	まとめ		後期のまとめ			
期末試験	後期期末試験		評価方法	受講態度 レポート	20% 30%	筆記試験 50%
【教科書】理学療法学ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学						
【参考書】病気が見えるvol.11運動器・整形外科						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】機能障害について、運動療法の目的・方法・効果について整理し復習してください。						
【本講義に関しての質問先】			担当教員	【質問方法】 教員室にて		

【担当教員】		【科目責任者】	【対象学科】	理学療法学科	【学年】	3
十文字 雄一	病院 8年勤務	十文字	【開講時期】	後期	【回数(時間)】	15(30)
			【曜日・コマ】	水 3・4	【授業形態・単位】	講義 1
【授業の概要】 対象者の健全なスポーツへの取り組みをサポートするために、メディカルサポートとトレーニングサポートの現状、競技特性や障害発生メカニズムを理解する					【受講して得られる力】 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 チームで働く力	
【学習目標(到達目標)】 ①スポーツ理学療法のかかわりについて説明できる ②各競技特性を理解し、理学療法士の関わり方について自分の考えを説明できる						
【履修上の注意】						
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容(授業方法・使用教材・学修方法)			
1	スポーツ理学療法の概要①		スポーツと理学療法の関わりについて説明できる。			
2	スポーツ理学療法の概要②		スポーツシューズ、スポーツウェアについて理解する。			
3	アンチドーピング		アンチドーピングの知識・対応の仕方を説明できる。			
4	応急処置①		スポーツセーフティーの知識を深める。 BLSについて理解し、緊急時の行動を説明できるようにする。			
5	応急処置②		熱中症、脳振盪時の評価・対応の仕方を理解できる。			
6	メディカルチェック		メディカルチェックの意義と基本的なメディカルチェックを知る。			
7	メンタルトレーニング		メンタルトレーニングの目的を理解する。 スポーツ障害の心理的問題を理解する。			
8	走行について①		走行について理解できる。 短距離・長距離の違いを理解できる。			
9	競技種目別		①各種競技の特徴(動作など)を記述できる			
②各競技・ポジションで起こりやすい障害を記述できる						
③傷害に対する、スポーツ医学・理学療法を記述できる						
④各種競技パフォーマンス向上を図る理学療法を記述できる						
10						
11						
12						
13	発表		各種競技の理学療法を説明できる			
14	特別講演		①スポーツ現場における理学療法士の役割について理解する ②コンディショニングの意義と評価について理解する			
15	スポーツ理学療法学 (赤羽)		特別講師による授業です。			
期末試験	後期期末試験		評価方法	筆記試験 50% 発表会の結果 20%	レポート	30%
【教科書】改訂第2版 スポーツ理学療法学 監修 陶山哲夫 MEDICALVIEW						
【参考書】ジュニアアスリートをサポートする スポーツ医科学ガイドブック 編集 金岡 恒治他						
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】運動学の知識(筋の作用など)						
【本講義に関する質問先】			担当教員	【質問方法】教員室にて		